

花園中学校 教科名（全教科に共通）

みちびき

花園中まなびゲーション

1 ねらい

家庭学習の定着化を図り、生徒の家庭生活の中に予習復習の習慣を持たせる。学習方法の確固たるものを持たない生徒に、学習方法の具体例を提示することにより、意欲的に学習に臨めるようにした。

2 取組概要

（1）具体的な取り組み

- ・全教科の授業の学習方法、家庭学習方法を明示する。
- ・夏休みの課題対策。
- ・授業の受け方、ノートの取り方の例示。
- ・家庭学習の成果を学習ピラミッドとして記録させ、達成感を持たせる。

（2）別添資料1

3 成果等

- ・ 年度当初に全校生徒に配布することにより学習への意識を高められた。
- ・ 新一年生の入学時に教科書と共に配布し、担任から説明をすることによって中学校の学習への不安を軽減させられた。
- ・ 学習方法を持たない生徒に一つの具体例が示せた。
- ・ 学習ピラミッドに記入することにより、学習意欲と達成感を持たせることができた。

花園中学校 教科名 (社 会)

基礎学力の定着を図るために

1 ねらい

確認テストを行ったり、単元のまとめや復習を行うことで学習の定着を図る。社会科は覚える内容も多いので、繰り返し確認テストや復習を行い、基本的語句を理解させる。

2 取組概要

- (1) 毎時、確認テストを実施する。5問～10問程度の問題。
- (2) カードを作成し、繰り返し復習する。
- (3) 家庭学習の取り組み方の指導
 - ・地図帳をそばに置いて、地名や位置をチェックできるようにする。
 - ・教科書に出てくる史料や絵、統計資料、グラフに目を通す。
→全体的な傾向がつかめる！
 - ・重要語句は漢字で書けるように練習する。
→漢字の意味と用語の意味の関連を考える。
 - ・習ったところのワークをやる。間違えたところは再確認する。
- (4) 定期的に宿題を出す。

3 成果

- 小テストを実施することにより、基本的語句の定着し、学習への理解が高まった。
- カードを使用することで、印象に残りやすい。
- 宿題を出し、家庭学習への取り組みにつなげる。

花園中学校 教科名 (数 学)

苦手意識を減らす図形指導の充実

1 ねらい

本校2学年の生徒は入学当初から算数が苦手でその中でも図形領域が苦手な生徒が多かった。そこでまず、1年生では観察・操作や実験などの活動を重視し、図形の学習の有用性や楽しさを実感させ、できる喜びを感じさせる。

2 取組概要

(1)数学科として一丸となって学力向上に取り組んでる

ア 全学年共通で評価カード・観点別の評価シールを活用している。評価カードは生徒一人一人の学習状況やニーズ、つまづきなどがわかるように工夫し、毎時間、教師からの励ましのメッセージや肯定的な評価を返している。評価シールは生徒の意欲喚起につながるとともに、学習状況が把握しやすく指導に役立っている。

イ パワーポイントで作成した教材やHP上で見つけた動画の教材、作成したプリントやテストなどすべての資源を全教師が共有し、活用できるようにしている。

ウ ティームティーチングや少人数指導を生かし、数学科チームとして授業の改善・指導の充実を図っている。

(2)観察・操作や実験を重視した図形指導

ア ICTを活用し、視覚的にわかりやすい教材を提示し、特に導入は誰でもわかる・解ける(評価シールがもらえる)状況をつくった。「線対称・点対称」「作図」「空間内の位置関係」「回転体」などは動画を利用するとともに、実際に自分の手を動かして折る、回す、重ねる、かくなど操作活動を重視した。

イ 図形を自らかくことにこだわり、作図はもちろんのこと分度器を使ってかく図形など時間がある限りかかせた。またかくだけではなく、切って重ねる、展開図を切って組み立てるなど活用も図るよう意識した。

ウ 日常生活と結びつける、実際の物体(身近なお菓子の箱や体育で使うコーン)を活用し、具体的に役立っているものを教材とした。

エ 図形の求積問題が苦手な生徒が多いため、自信をもたせるために繰り返し練習問題を行った。おうぎ形の面積・中心角の問題では「何分の一円」かを常に意識させた。

3 成果等

- ・図形の学習が楽しい、少し自信がついたという生徒が増えた。
- ・数学は苦手だが、図形をかくのは好き、操作や実験は楽しいと感じ、意欲につながっている。
- ・学習状況調査の図形領域の正答率は65.1%で、特に「角錐の体積」「おうぎ形の面積」「線対称・点対称」「投影図」は正答率が高かった。
- ・作図は授業ではとても力を入れたが、思ったような正答率には至らなかった。基本の作図の指導にとどまり、利用することについてまだ不十分であった。今後の指導に生かしていきたい。

花園中学校 教科名 (理 科)

言語活動を重視した授業

1 ねらい

新しい単元の導入時や、観察・実験の場面で、問題解決のための話し合いを取り入れ、言語活動を通して生徒の科学的な思考力・表現力を育む。

2 取組概要

話し合いをするために、まず自分の考えを書く時間を設ける。授業では毎時間ワークシートを使用しているので、**波線で囲んだ所は『自分の考え』を書く欄**というパターンを作っている。その後班で発表しあい、班でまとまったよりよい意見を発表したり、班毎に黒板に書く。ワークシートには、『**他の意見を聞いて**』の欄に、班の他の人の意見や、他の班の意見でよいものを抜粋して書く。教室・理科室ともに、席男女交互になっている。話し合いの時には、男女4人が基本となる

男	女
女	男

教室の席は、授業のまとめの際には前向きに戻し、最後に『**感想の欄・評価の欄**』に、今日の授業でわかったことを簡単な文章にしてまとめ、ABCの評価をする。そこまでしっかり書き終わったら、挙手をして印をもらう。この印は、ノートを提出した際にカウントして評価につながるという流れである。

深谷市では各教室にスクリーン・プロジェクター・DVDプレイヤーがあり、教師用のパソコンをつないでインターネットに接続することも可能である。『理科ねっとわーく』等を利用して画像や動画で確認したり、パワーポイントを使って独自の視聴覚教材を見せることができる。視覚に訴え、わかりやすい授業を展開するために、毎時間のように利用している。

自分の考えを文章化するためには、5分・10分とある程度の時間を設けるようにしている。しかし、生徒によっては時間が余ってしまうため、課題が終わって残った時間はワークを進める時間としている。

また、基礎学力の定着を図るため、ワークシートの最初は前時の復習の穴埋めとし、取り組んでいる時間に授業道具忘れがないかチェックしている。

3 成果等

- ・自分の考えや今日の感想を書くことで、自分のことばで表現することが定着しつつある。
- ・友達の発表からよい所を学び、色ペンで書き足すという習慣がついてきた。
- ・その日に評価印を押してもらうために、積極的に課題に取り組み挙手をするようになっている。また、班内での教え合いもみられる。
- ・課題が終わったらワークを進めるというパターンが定着し、無駄話をせず繰り返し学習ができる生徒が増えてきている。

花園中学校 教科名 (英 語)

苦手意識を減らす「書く活動」の充実

1 ねらい

本校2学年の生徒は昨年度から英語が苦手で、その中でも「聞くこと」、「書くこと」を苦手とする生徒が多かった。そこでまず、「書くこと」の活動を中心に4技能を連携させた活動を工夫する。そして、自分の考えや伝えたいことが相手に伝わる喜びを実感させることで、苦手意識の克服を図る。

2 取組概要

(1) ICTを活用した「書くこと」の活動

ア 書くことが苦手な理由の一つに、文構造が理解できていないことが考えられる。そこで、パワーポイントを利用して、文構造を目に見えてわかりやすい形で説明する。

イ 書くことのドリルをパワーポイントで繰り返し行い、文構造の理解・定着を図る。

ウ ICTで場面設定を行い、班対抗スキットメイキングゲームを行う。班で協力して考えると楽しく表現方法を学ぶ。できたスキットを班で演じることで、話すことにつなげる。

(3) プログラム終了毎の課題作文とコミュニケーションテストの連携

ア 各プログラム終了時に設定されている課題作文を書かせる。その際、ALTやJTEとのTTの時間を活用し、個々の生徒の能力に合わせた文章を書かせる。評価項目は、1文でも多く書こうとしているか、相手にわかりやすい内容か、正しい文法で書かれているか。評価後生徒に返却し、ミスやよい表現を確認させる。

ウ 返却された作文をもとに、ALTとのコミュニケーションテストを行う。暗記してALTに伝える→内容についてALTからの質問に答える→ALTが評価をする。評価項目を、英語らしいスピードで話しているか、英語らしい発音で話しているか、質問への答え方（ロングアンサーかショートアンサーか）、間違いをおそれず話そうとしているか、とすることで「聞くこと」「話すこと」の活動へとつなげる。

3 成果等

- ・ICTの活用は今年度2学期に入ってからであるため、成果は明らかにはなっていないが、あやふやだった文構造がわかりやすくなったと感じる生徒は増加している。
- ・各プログラム後の課題作文については、「書くこと」に慣れ、抵抗がなくなってきたと感じる生徒が増えている。特に、伝えたいことを1文でも多く書こうとする姿勢は定着してきており、コミュニケーションへの関心・意欲・態度に関しては学習状況調査の県平均を11.6ポイント、深谷市の平均を6.6ポイント上回った。